

軌道変位計測システム

Rail Man

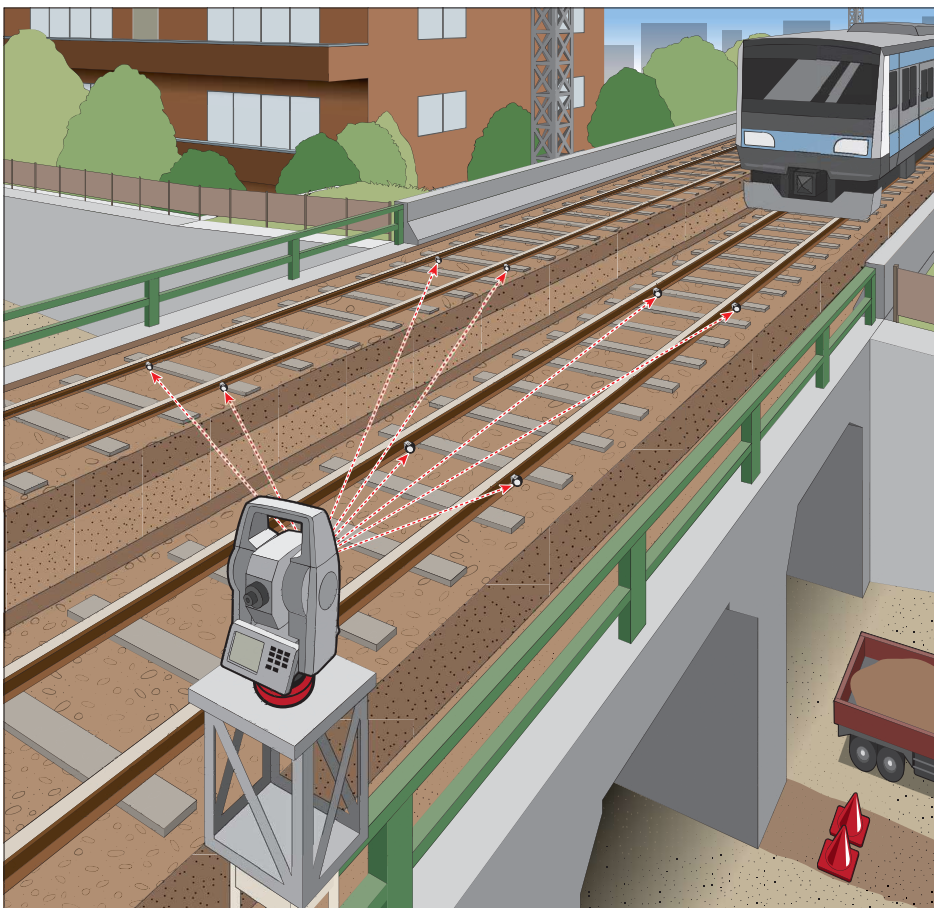
特長

本システムはトータルステーションのプリズムロック機能を利用して、軌道変位を自動計測するシステムです。鉄道営業線に近接して工事を行う際、軌道に立ち入ることなく、軌道変位を24時間自動計測し、列車の安全運行を支援します。

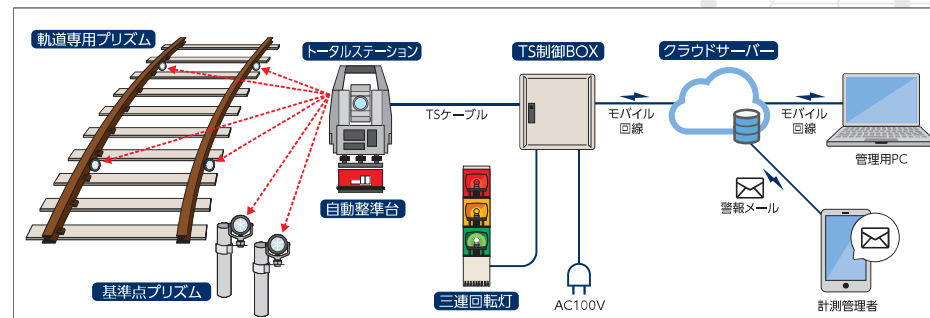
POINT

- 自動計測により、軌道の通り・高低・軌間・水準・平面性を管理することが可能
- 自動計測の導入により、日常観測の省人化に貢献

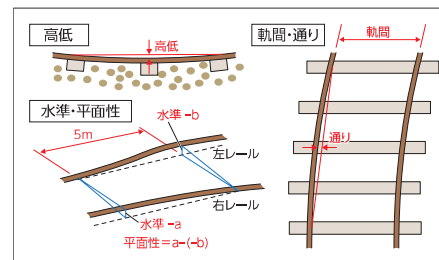
概要図



システム構成



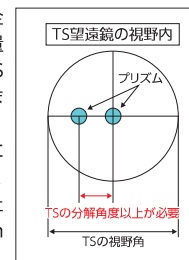
管理項目



TS配置の注意点

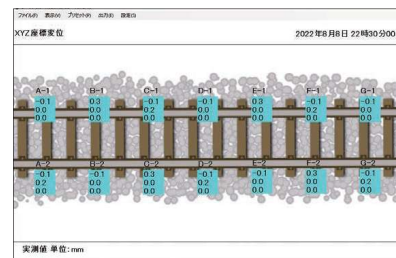
軌道変位計測では、作業安全上、TSと架線との距離を一定量以上確保する必要があります。TSを高所に設置することができません。

よって、TS望遠鏡の視野内に複数のプリズムが混在する為、プリズムロックの誤認識を防止する観点から、計測半径を80m程度に抑える必要があります。

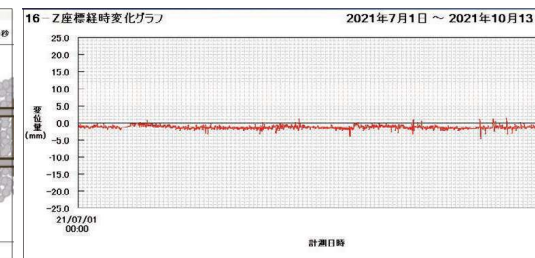


管理ソフト

メイン画面における「軌間・水準」表示と「高低・通り」表示の切り替え、経時変化グラフ出力、計測値が管理基準値を超えた場合の警告メール発信機能などを有します。



■メイン画面



■経時変化グラフ出力

施工写真

